

# マルハニチロにおける フードバンクとの取組み

マルハニチロ株式会社  
経営企画部 サステナビリティ推進グループ

志村 遥夏

2023年2月21日



# 目次

## <目次>

- 1． マルハニチログループについて
- 2． フードロスの現状と課題
- 3． フードバンクとの取組みと課題

# マルハニチログループについて

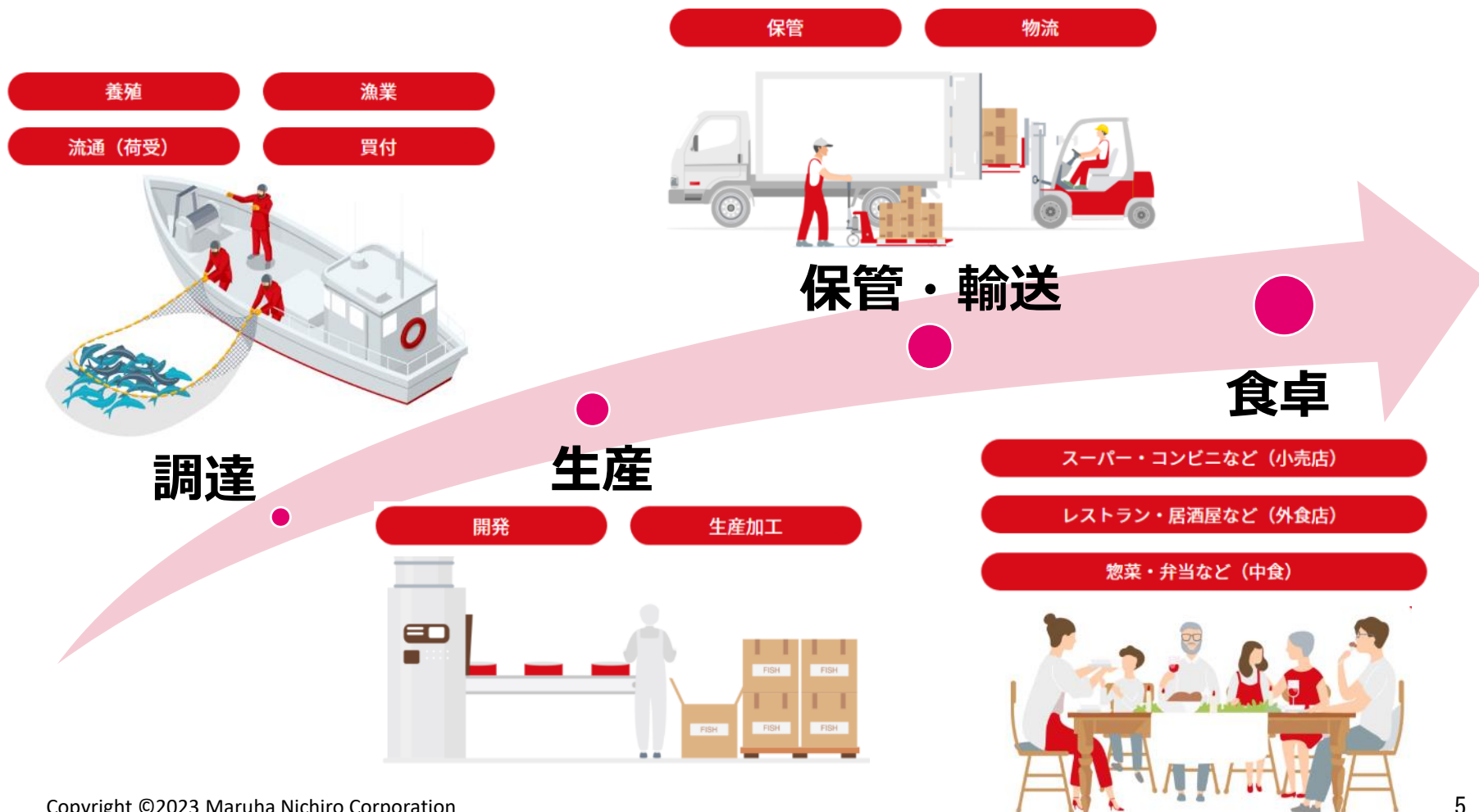
# マルハニチログループについて



  
**MARUHA NICHIRO**  
海といのちの未来をつくる

# マルハニチログループについて

マルハニチロは、グローバルな水産物調達力を生かし、  
一貫したバリューチェーンを通じて世界の人々の食を支えています。



# マルハニチログループを取り巻く社会環境課題

当社グループを取り巻く社会環境課題が年々深刻化



## 深刻化する気候変動

世界中で異常気象が深刻化し、人々の生活や企業活動に影響が発生



## 水産資源の減少リスク

世界的な魚食需要の高まり等から水産資源の減少リスクが発生



## 人権問題の顕在化

サプライチェーンのグローバル化に伴い、人権侵害が多様化かつ増加

- ✓ 「世界No.1の水産会社」としてマルハニチログループが果たすべき役割が明確化
- ・ 異常気象、水産資源減少リスクなどを踏まえた、地球環境との共生
  - ・ グローバルに活動する企業として、サプライチェーンの人権リスクへの対応 など

中期経営計画「海といのちの未来をつくるMNV2024」において  
サステナビリティ戦略（重要課題）見直しを実施

# フードロス（製品廃棄）削減の目標を設定

中期経営計画の重要課題の一つ「循環型社会実現への貢献」ではの目標として、「**2030年までにフードロス（製品廃棄）を2020年度比で50%削減する（国内グループ）**」を掲げ、フードロスを削減するための取組みを進めています。

|         | マテリアリティ             | KGI (2030年の<br>ありたい姿)                          | 主なKPI                                                | ターゲット |       | 関連する<br>主なSDGs                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------|---------------------|------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         |                     |                                                |                                                      | 目標値   | 目標年   |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 環境価値の創造 | ①気候変動問題への<br>対応     | 脱炭素や気候変動に対して業界における主導的地位を確立している                 | CO <sub>2</sub> 排出量削減ロードマップ策定（国内G <sup>+</sup> ）     |       |       |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|         |                     |                                                | CO <sub>2</sub> 排出量削減率（2017年度比：国内G）                  |       |       |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|         |                     |                                                | カーボンニュートラル達成（G全体 <sup>+</sup> ）                      |       |       |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|         | ②循環型社会実現への<br>貢献    | 効率的な資源利用によるサーキュラーエコノミー（循環型経済）がグループ内に浸透し、実践している | プラスチック使用量削減率（バイオマス、リサイクル素材等への切替含む）（MN <sup>+</sup> ） |       |       |                                                                                             |
|         |                     |                                                | フードロス（製品廃棄）削減率（国内G）                                  | 50%以上 | 2030  |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|         |                     |                                                | 食品廃棄物等の再生利用率（国内G）                                    | 99%以上 | ～2024 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|         | ③海洋プラスチック問題への<br>対応 | 自社を含むサプライチェーン上で海洋へのプラスチック排出ゼロを実践している           | 漁具管理ガイドラインの策定と運用率（G全体）                               | 100%  | 2024  |    |
|         |                     |                                                | 海岸クリーンアップへの従業員参加率（国内G）                               | 30%以上 | 2030  |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|         | ④生物多様性と生態系の<br>保全   | 取扱い水産資源について、資源枯渇リスクがないことを確認している                | 取扱水産物の資源状態確認率（G全体）                                   | 100%  | 2030  |                                                                                         |
|         |                     |                                                | 生物多様性リスク評価実施（国内G）                                    | —     | 2024  |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|         |                     |                                                | 養殖場の認証レベル管理の実施（国内G）                                  | —     | 2024  |                                                                                                                                                                                                                                                                   |

フードバンクとの  
取組みにも関係

# フードロスの現状と課題

# マルハニチロで発生しているフードロス

“まだ食べられるにもかかわらず、販売できなくなった商品”  
が廃棄されて、フードロスとなっています



角の箱潰れのため廃棄



洞潰れのため廃棄



表面破れのため廃棄

- ・ 輸送時の外装破損品（商品自体に問題がない破損）
- ・ 輸入時の抜き取り検査による箱開封品（端数品）
- ・ 終売品、滞留在庫（納品期限切れ）

など

# フードロスの現状と課題

## マルハニチロでのフードロスの発生状況と課題

- ・商品の中身に問題がないような軽微な外装破損でも、物流会社（倉庫や配送業者）から受取拒否
- ・1ケース2合わせなどの規格の商品では、バンドの食込みによる破損も多いが、片方の箱が破損すると、もう片方が問題ないとしても、単箱では規格外品のため流通不可
- ・輸入の際の抜き取り検査による箱開封品（端数品）は、品質は問題ないが規格外品となるため流通不可



軽微な外装破損



バンド食込みによる破損



抜き取り検査による箱開封品

# フードロスの現状と課題

## 物流会社や小売店など受入側の現状と課題

- ・ 物流会社（倉庫や配送業者）は、問屋や店舗で受取拒否されると弁償の必要があるため、軽微な外装破損でも入庫時に弾かれることが多い
- ・ 倉庫は入出庫作業が主のため、外装破損品の商品状態確認等は人員確保が難しく、外装破損品の最終判断はメーカー側の確認が必要
- ・ 小売店では、1ケース2合わせが規格の商品は単箱（規格外）での受入れはできない



# フードロスの現状と課題

## 外装不良問題はメーカー側での フードロスの大きな発生原因のひとつ

「外装も商品の一部」という考えから物流会社や消費者が受取り拒否している現状がある

飲料配送においては、飲料配送の関係者、関係省庁及び法律の専門家を交えた「飲料配送研究会」の報告を基にポスターを作成し、外装不良品の返品防止・販売促進を周知

食品配送においても官民・業界団体で  
一体となって取組むべき問題

食品ロス削減にご協力をお願いします

中身は問題がないのに、輸送・保管中に生じた飲料の外箱がちょっとのキズ・汚れで返品されることがあります。

当店では、今後 以下のようなものは返品せず、そのまま販売します。  
については消費者の皆様にも趣旨をご理解の上、ご協力をお願いします。

段ボールの膨れ

段ボールのしわ

段ボールの汚れ  
※ほこり等拭き取り可能なもの

段ボールのすれ・切欠き部開き  
※すれについてはコードが覆えるもの

国税庁 / 農林水産省 / 経済産業省  
中小企業庁 / 国土交通省 / 公正取引委員会

# マルハニチロでのフードロス削減の取組み

## ●フードロス削減に向けた取組み事例

### <社内での取組み>

#### ・賞味期限延長

過去に実施してきた常温品の賞味期限延長に加え、2022年から、市販用や業務用の冷凍食品の一部で、賞味期限を12か月から18か月へ6か月延長した商品を発売



#### ・社内消費促進

2021年から、廃棄されがちだった商談用サンプルの残り在庫などを配布し、持ち帰る取組みをマルハニチロ本社にて開始



### <社外との取組み>

#### ・フードバンクへの食品寄付

2009年から、「まだ食べられるにもかかわらず、販売できなくなった商品」をフードバンクへ寄付



冷凍食品が多く、配送と保管に課題

# フードバンクとの取組みと課題

# フードバンクとの取組み状況

## ●マルハニチロにおけるフードバンクとの取組み

2009年：セカンドハーベスト・ジャパン様へ食品寄付を開始

2019年：子ども食堂やフードパントリーを行う団体に食品寄付を開始

2022年：中部支社においてセカンドハーベスト名古屋様への食品寄付を開始  
フードバンクかながわ様への食品寄付を開始

**2022年度寄付実績（2月現在）：約48,000個**※冷凍食品主体、一部缶詰・ゼリー含む



企業から小さな活動団体への個別配送は課題もあり、フードバンクへの集約が効率的

# フードバンク活動が活発化している背景

## フードバンク活動やフードロス削減に関しても、 企業や社会全体で大きく意識が変化

- ・ SDGsへの注目が高まり、社会に浸透してきた
- ・ 投資家のESG（環境・社会・ガバナンス）指向が高まり、企業がSDGsをはじめとする社会的課題へ取り組む姿勢も注目されている

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### フードバンク活動やフードロス削減に 関連するSDGs目標

- 2 : 飢餓をゼロに
- 12 : つくる責任 つかう責任
- 17 : パートナリーシップで目標を達成しよう

# フードバンク活動が活発化している背景

新型コロナウイルスや物価高騰の影響により  
食品支援のニーズが高まっている

## 日本でも生活困窮家庭が増加

- ・ 子どもの7人に1人が貧困状態（厚生労働省「2019年 国民生活基礎調査」より）
- ・ 2021年の生活保護申請件数は前年より5.1%増加（厚生労働省の統計より）

新型コロナウイルスの  
影響による収入減

社会情勢不安や  
円安による物価の高騰

## 食品支援のニーズが高まっている

- ・ フードバンクかながわ様では食品取扱量がコロナ前から倍増（フードバンクかながわ様 HPより）
- ・ セカンドハーベスト・ジャパン様ではコロナ以前は一日平均70～80人だった利用者が150～200人（ピーク時は300人）と約2.5倍に（セカンドハーベスト・ジャパン様 HPより）
- ・ 当社も子ども食堂やフードパントリーを営む団体からの食品支援の問い合わせが増加

# フードバンクかながわ様との取組み 物流会社との連携事例

## 2022年度からフードバンクかながわ様へ食品の寄付を開始

- ・ マルハニチロでは発生するフードロスの多くが冷凍食品
- ・ マルハニチロの冷凍食品の保管倉庫は神奈川県川崎地区に集中
- ・ フードバンクかながわ様では保冷車、冷凍倉庫設備があり、2022年4月から本格的な冷凍食品の導入を開始
- ・ マルハニチロ、物流会社（倉庫）、フードバンクかながわ様との連携により保管倉庫からの定期的な冷凍食品引取・寄付のスキームを構築中  
まずは品質を担保できる輸入時の抜き取り検査残の端数品から実施



2023年度より、  
フードバンクかながわ様との  
定期的な食品引取・寄付を  
本格的に開始予定

# フードバンクかながわ様との取組み 物流会社との連携事例

＜12月に実施したテスト配送の様子＞



物流会社倉庫に保管されている当社冷凍食品



輸入検査で抜き取られた箱開封品の状態確認（製品品質は良品と同じ）



フードバンクかながわ様の保冷車で引取



(株)ヒューテック  
ノオリン様

フードバンク  
かながわ様

マルハニチロ

テスト配送では、弊社商品を保管いただいている(株)ヒューテックノオリン様にご協力いただきました。  
今後その他の物流会社とも実施予定です。

**企業の枠を超えて社会課題解決に向けて協力しています**

# フードバンクとの取組みに関わる課題

## ●寄付商品に関して

- ・商品や数量に応じたフードバンクとのマッチング  
例) 冷凍食品…フードバンクや提供先での冷凍庫等の設備が必要  
業務用食品…量が多く家庭には不向きだが、子ども食堂等では活用可能
- ・プライベートブランド（PB）品の寄付はPBオーナー様との協業が必要
- ・業界で統一した外装破損品の判断基準

## ●配送に関して

- ・寄付量が多くなると配送コストも増加
- ・保管拠点に応じた各地のフードバンクとの連携

## ●理解促進に関して

- ・社内および社外の物流会社等のフードロス削減に対する理解と協力が必要

**行政による支援や、企業同士の連携・協力が  
フードバンク活動における課題解決の糸口だと考えます  
一丸となって取り組んでいきましょう**

**Thank You**



**MARUHA NICHIRO**

海といのちの未来をつくる